

KCドレン用伸縮継手 取扱説明書

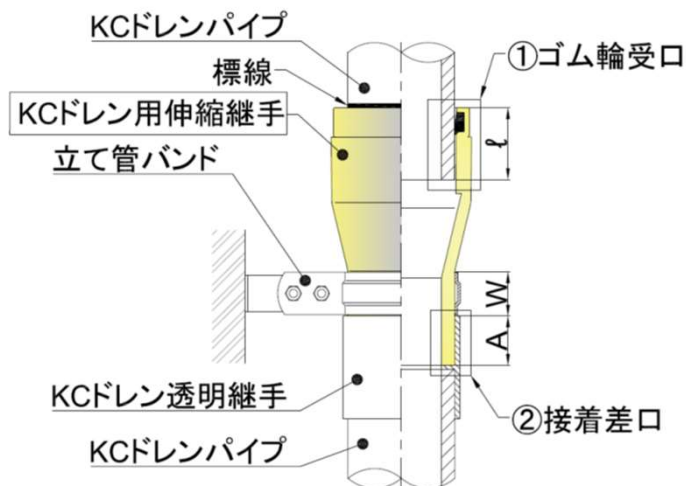
この説明書には、製品を安全にご使用いただくための内容を記載しています。工事前に必ずご一読の上、ご使用ください。

本書に記載しているマークの見方

お守りください。お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

⊘ 行ってはいけない「禁止」の内容です。 ⚠ 気をつけていただきたい「注意喚起」の内容です。

1. KCドレン用伸縮継手の特徴



伸縮継手の施工参考図

★KCドレンパイプと同等の断熱性能

★許容熱伸縮量 ±20mm

★KCドレンパイプと同じサイズの立て管バンドが使用可能

伸縮継手の寸法表

単位：mm

伸縮継手 呼び径	ℓ (挿入代)	伸縮量	A (接着代)	W (バンド幅)
40	55	±20	25	32
50	55	±20	35	32
65	55	±20	40	32

備考1)伸縮代ℓは、施工が完了した場合の値です

2)接着代Aは、同じ呼び径のすべてのKCドレン継手と共通です

3)W寸法は、使用可能なバンド幅の最大値です

2. 施工手順

A. ゴム輪接合部の施工手順

①挿入するKCドレンパイプの端面の面取りを行ってください。

⚠面取り幅は、次の寸法を目安に行ってください。(呼び径40、50：2mm 呼び径65：3mm)

面取りが不足した場合、挿入時にゴム輪を傷つける危険性があります。

②パイプ端面から寸法表のℓ（挿入代）の長さの位置に標線を記入してください。

③パイプの端面に接着剤（カラータフダイン150N）を塗りムラの無いよう塗布してください。

⚠パイプ内外面にはみ出た接着剤は、ウエス等で拭き取ってください。

はみ出した接着剤が固化すると、挿入時にゴム輪を傷つけたり、掃流性に影響を及ぼします。

⊘接着剤が乾くまで、接合は行わないでください。

(目安：指触り、引っ付かない程度)

挿入時にゴム輪に接着剤が付着し、水密性能に影響を及ぼします。

④ゴム輪は、滑剤レスゴム輪ですが、挿入が困難な場合は、専用滑剤（Vスプレー）をご使用ください。

⚠Vスプレーは、接着前の伸縮継手差口表面に付着しないように

注意してください。滑剤の付着は、接着不良の原因になります。

⚠所定の挿入代付近でパイプが留まるよう施工を完了してください。

挿入し過ぎや挿入不足の場合は、許容熱伸縮量を期待できません。



パイプ端面の接着剤塗布状況

B. 接着接合部の施工手順

⚠『KCドレンパイプ・透明継手』カタログに記載する手順、注意事項に従い接着接合を行ってください。

ただし、差口部は、面取り実施済み、接着剤（透明）塗布済みです。

3. 注意事項

⊘ 横向き、また、上下反対向きで使用しないでください。ゴム輪受口側が上向きです。（施工参考図参照）

横向きでは、掃流性や断熱性、上下反対向きでは、水密性や伸縮性能に影響を及ぼします。

⚠各階1ヶ所、スラブ直上に設置してください。

⚠伸縮継手が固定支持となるように、施工参考図に示す位置で、立て管バンドをきちんと締め付けてください。

⚠1階層が高い建物で使用する場合の設置個数については、弊社までお問い合わせください。

⊘伸縮継手の差口は、切断して使用しないでください。接着不良の原因となります。

⚠その他、保管や取扱い等一般的な注意事項は、『KCドレンパイプ・透明継手』カタログをご確認ください。